

若狭牛へのモミ殻給与利用

畜産試験場では飼料自給率の向上と低コスト生産のため、地域の各種未利用資源の飼料化を図っています。今回はモミ殻を取り上げ、稲ワラの代替飼料としての利用を検討するために、肥育農家の協力を得て肉用牛への給与実証試験を行いました。

試験は、黒毛和種肥育牛（若狭牛）16頭を用い、給与粗飼料を通常の稲ワラの半分量（0.5 / 頭・日）をモミ殻に代替する試験区（8頭）と、稲ワラのみを給与する対照区（8頭）としました。モミ殻は配合飼料にふりかけて給与しました。モミ殻給与期間は17ヶ月齢から出荷時の約30ヶ月齢までとし、体重、血中ビタミンA濃度等を調査しました。

発育状況を示す1日当たりの増体重は、両区とも0.72 で良い発育を示しました。（表1）

また、試験開始後、飼料摂取状況を調査したところ、試験区で9.88（配合8.59 + 稲ワラ0.77 + モミ殻0.52）、対照区で9.09（配合8.01 + 稲ワラ1.08）となり、モミ殻だけを残すようなことはありませんでした。

脂肪交雑に大きく関与する血中のビタミンA濃度は、図に示すとおり両区とも肥育中期に低下す

る傾向にあり、特に大きな差はありませんでした。（図2）

肉質は、牛肉中の脂肪交雑の大小が大きなウエイトを占めますが、その基準となるBMSは、試験区の方がやや良い結果となりました（中間成績）。

モミ殻給与の経費を試算すると、稲ワラ単価45円/、モミ殻2.4円/、20ヶ月間給与とした場合には、1頭当たり約12,000円節約となります。

以上の結果から、モミ殻給与は、発育性や肉質への悪影響は少なく、生産費の低減に有効な方法です。

（畜試 資源活用G 佐藤智之）

表1 発育・肉質成績

	1日増体重()※1	肉質等級※2	BMS※3
試験区	0.72	3.9	5.7
対照区	0.72	3.3	4.8

※1…17-26ヶ月齢

※2…試験区7頭、対照区4頭の平均値

肉質等級 5(かなり良い)～1(劣る)

※3…ビーフ・マーベリング・スタンダード（脂肪交雑基準）
12(最も多い)～1(ない)

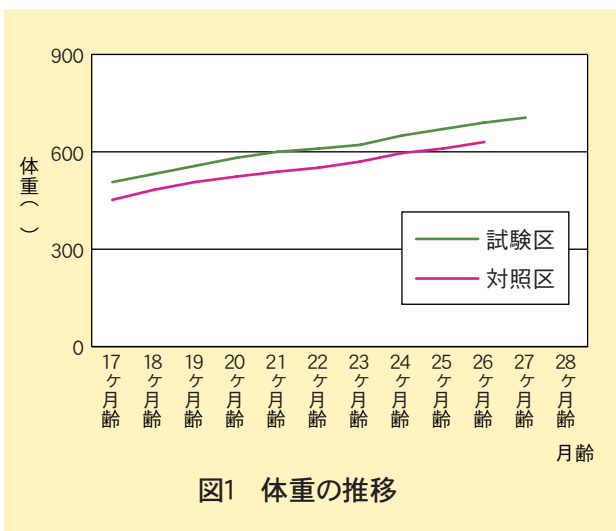


図1 体重の推移

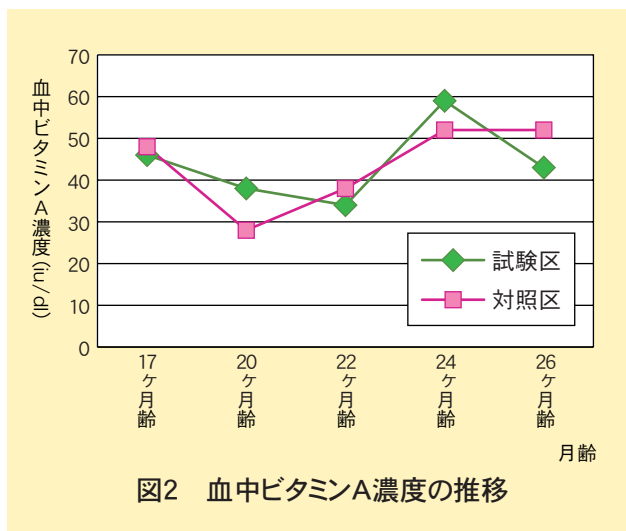


図2 血中ビタミンA濃度の推移